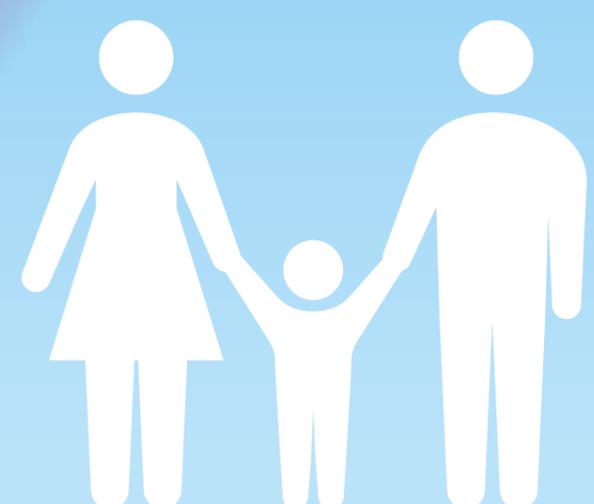


70年!

枚方

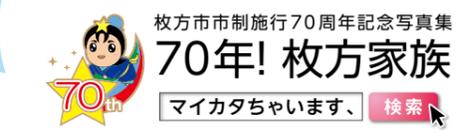
ひらかたかぞく

家族



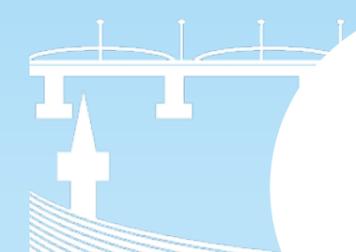
枚方市は「地域を盛り上げたい」「もっと住み良いまちにしたい」という思いを持った、地元を愛する人のエネルギーに満ちあふれたまちです。この写真集は、そんな皆さんからご提供いただいた、家族や友人と一緒に写った写真を中心に編集し、本市ゆかりの著名な方々からも貴重な写真とメッセージをいただきました。建物や町並みなど風景の移り変わりはもちろん、親しい人との何気ない日常のひとつコマは、枚方市70年の歩みをグッと身近なものにしてくれます。そして、時代は変わっても、まちづくりの主人公は常に市民の皆さんであることを改めて実感できます。この写真集を通して、あなたの「枚方愛」をぜひ、再発見してください。

平成29年11月
枚方市長 伏見 隆



平成29(2017)年11月発行 / 枚方市 市長公室 広報課

〒573-8666 大阪府枚方市大垣内町2丁目1番20号 ☎072-841-1258 ☎072-846-5341
✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp 🌐http://www.city.hirakata.osaka.jp



◆おかだ・じゅんいち

昭和55年大阪府枚方市生まれ。平成7年「V6」のメンバーとしてデビュー。その後、俳優としてもドラマや映画で活躍。平成29年には映画「関ヶ原」が公開され、平成30年には映画「散り椿」が公開予定。

目次

- 4 遊園地のあるまち
- 9 思い出詰まった学校
- 12 家族でお参り
- 14 駅前がまちの顔
- 15 公園で遊ぶ
- 18 団地のある風景
- 20 楽しいお祭り
- 22 仲良くお出かけ
- 26 みーんな枚方家族
- 31 枚方市70年の歩み

この写真集は、おおむね昭和22年以降に市内で撮影された家族や親戚、友達などが写っている写真を公募し、56人から提供いただいた119枚を掲載しています。また、PR大使など枚方ゆかりの著名人からも写真とメッセージを提供いただいたほか、市の所蔵写真なども追加して構成しています。

枚方市、市制施行70周年おめでとうございます。

先日、帰郷した時にフラフラと街を歩きましたが、やはり枚方市は僕の故郷、大好きな街だなと感じました。

当然、僕がいたころから22年の月日が経っており、移り変わる風景もありますが、変わらない景色もたくさんありました。淀川の土手、古墳、御殿山図書館、公園や学校、そしてひらパー。

変わったのは最新の物が買える、見られる！

当時、枚方は駅前にビブレしかなかったですし、楠葉は世界トーナメントをするゴルフ場がある大人の場所でした。子どもの視点です（笑）。

それが今や枚方の駅前には日本で一番の「枚方T-SITE」があり、楠葉には最新の複合施設や映画館があります。

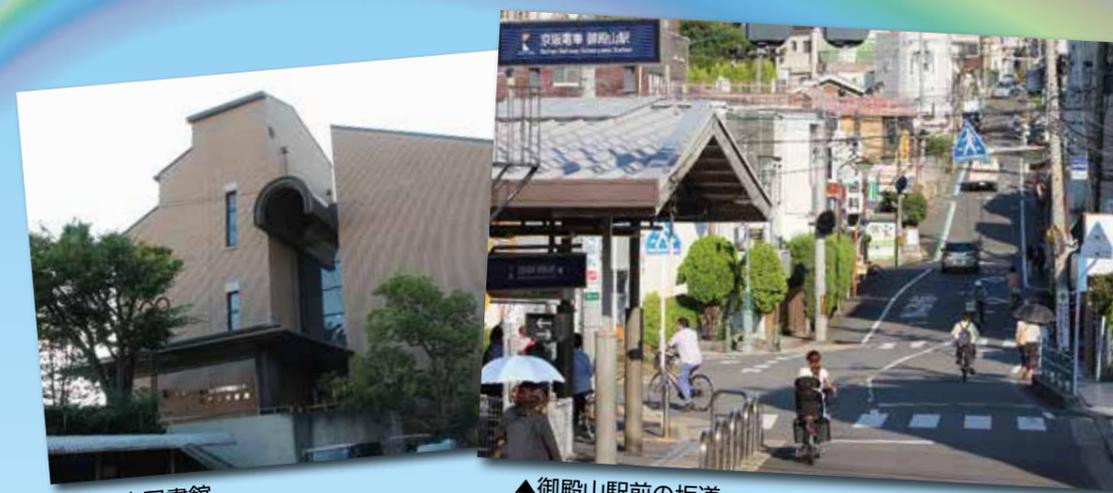
進化を続けていますね！枚方市。

久しぶりに自転車で、御殿山の駅前からの坂を駆け上がりたくなります。あの坂を自転車で足を着かずに上がるのが夢でした。皆さんも是非、自転車で試してみてください。

家族がいっぱい住む、住みやすい町、枚方。大好きです。

市制施行70周年おめでとうございます！

岡田 准一



▲御殿山図書館
(御殿山生涯学習美術センター)

▲御殿山駅前の坂道

遊園地

のあるまち



ひらかたパーク



「ひらパー」の愛称で親しまれる枚方の顔。100年以上の歴史を持つ遊園地で年間100万人以上が訪れます。駅からすぐなので家族連れで気軽に行けるのが魅力です。夏のプールに冬のスケートなど楽しく過ごす親子連れが一年を通して見られます。



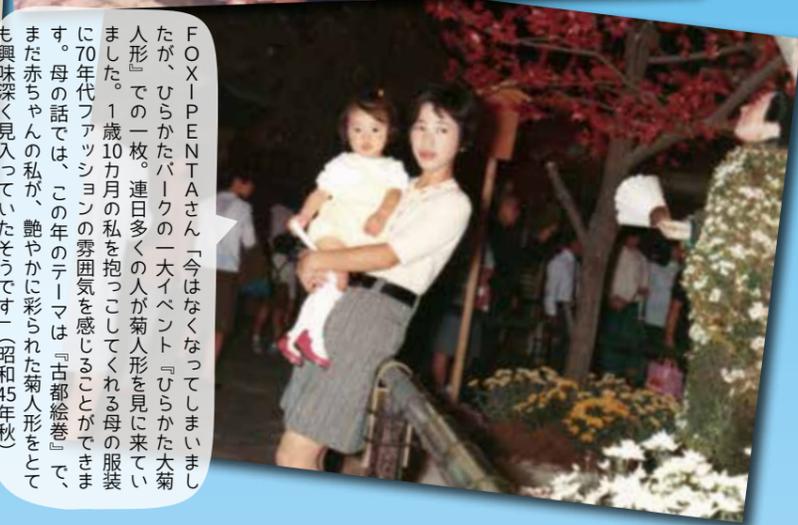
くまさん「いとこと行ったひらかたパークの菊の前でガチガチに緊張して記念撮影。ハイソックスがずれ落ちないようにバンドでとめているのが懐かしいです」(昭和36年)



太田潤さん「ひらかたパークでドラゴンボールの催しをやっていました。秋の菊人形、夏のプール、冬のスケート、子どもたちの大好きな場所です」(昭和62年5月)



ちずさん「3歳の時に母と。ひらパーでの写真は他にもたくさんありましたが、後ろのモンキーランドが懐かしかったのでこれを選びました」(昭和45年8月)



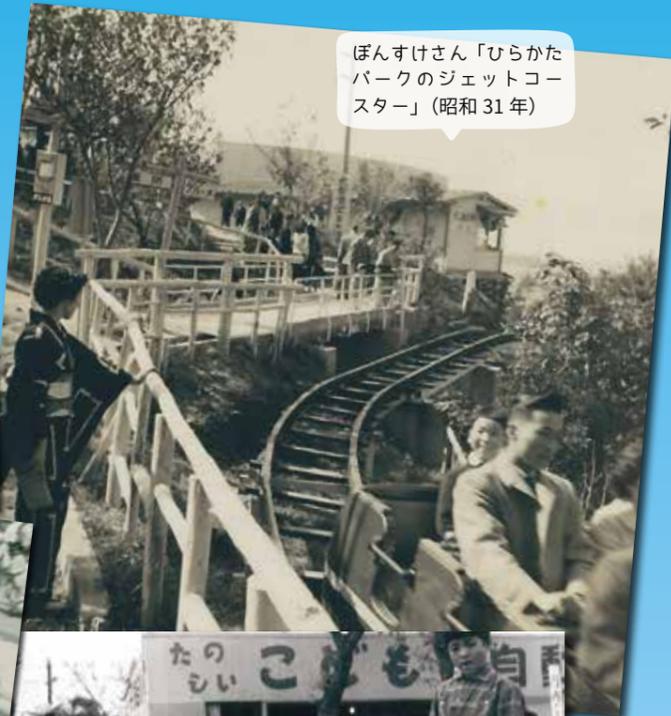
FOXIPENTAさん「今はなくなってしまうが、ひらかたパークの一大イベント『ひらかた大菊人形』で一枚。連日多くの方が菊人形を見に来ていました。1歳10カ月の私を抱っこしてくれる母の服装に70年代ファッションの雰囲気を感じることができました。母の話では、この年のテーマは『古都絵巻』で、まだ赤ちゃんの私が、艶やかに彩られた菊人形をとっても興味深く見入っていたそうです」(昭和45年秋)



あっこさん「お嫁入り前のおばとツーショット。笑顔が足りない私。きっとアニメのキャラクターの大きさに驚いているのではないのでしょうか」(昭和45年春)



KAZUSUさん「ひらかたパークの池の前で父の肩車」(昭和33年4月)



ぼんすけさん「ひらかたパークのジェットコースター」(昭和31年)



ちよんさん「当時、子どもたちの間で流行っていた『おかあさんといっしょ』の体操『お手々をぶらぶらぶらぶら』をしているところです」(昭和43年)



明円勝さん「6歳頃。子ども自動車を運転して自慢です」(昭和37年秋)

応募枚数が一番多かったのは、やっぱり「ひらかたパーク」。菊人形などが行われたイベントホール前は定番の記念撮影スポットでした。アトラクションも時代によって移り変わりますが主役はやっぱり子どもたち。昔も今も、市民にとって一番の思い出の場所なんですね。

枚方ゆかりの人



タージンさん

「ロケの神様」の異名を持つマルチタレント。アマチュア時代からテレビ・ラジオに出演し、読売テレビ「どんぶり5656」でデビュー。関西を中心にさまざまな番組でのリポーターや、漫談家として天満天神繁昌亭への出演など幅広く活躍している。

もう枚方を「マイカタ」とは呼ばせない!

京阪沿線育ちの私にとって枚方はひらかたパークをはじめ、大塚身近な街。大阪市立高校へ通うときは、京阪電車が一番傾く光善寺駅を利用し、枚方公園・枚方市・御殿山・牧野・樟葉には青春を一緒に過ごした友の顔とセピア色の思い出がある。まさに故郷であり、もう身内感覚である。京都へ行くときは阪急でなく必ず、京阪に乗る。車窓からの景色に懐かしさとトキメキがあるからだ。古典落語「三十石夢乃通路」で「くらわんか舟」の登場時には誇りさえ感じる。歴史・文化ある枚方も市制70年。

もう枚方を「マイカタ」とは呼ばせない! もう私タージンを「たかじん」と呼ばせない! とともにますますアピールしてまいります!



5歳頃、島根県の親戚たちとひらかたパークで(中央)。



18歳の頃。大阪市立高校では落語研究会に。キャンデイス伊藤蘭の「蘭」と、呂宋助左衛門の「助」をとり蘭助(昭和55年頃)。



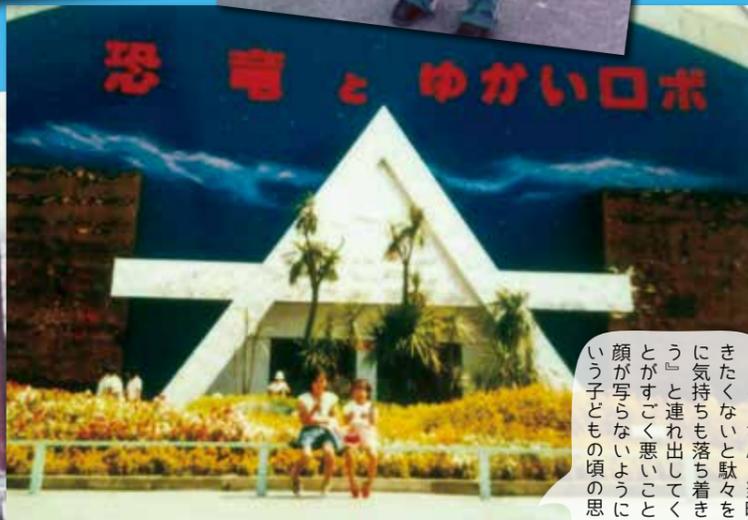
ひらパー姉さん「冬にひらかたパークに行った時に撮った写真です。ひらパー園長の岡田准一さんがCMで着ていた枚方パーカーを着てテンションが上がりまくっている一枚です。その他にもスケートをしたり、イルミネーションを見たりと全力で楽しみました。枚方いいところ！」(平成28年12月)



ぼくさん「マジングガイズのボロボロの前で撮影。ひらかたパークでマジングガイズのイベントがあったんでしょうね。記憶がないゼー(笑)」(昭和48年頃)



Hirotyさん「今はもうなくなったアトラクションで、母親と3兄弟で撮った一枚。単純な乗り物アトラクションでもものすごく楽しかった遊園地であった思い出が...。当時はまだ大菊人形もあり、乗り物に乗る前に必ず菊人形を無理やり見せられた記憶があります」(昭和46年)



Kyounさん「当時、小4の私と4歳の妹。ある日学校に行きたくないと駄々をこねて朝から母を困らせ大喧嘩。昼過ぎに気持ちも落ち着き、母が私と妹に『ひらかたパークに行くこと』と連れ出してくれた。学校を休ませて遊びに行くことがすごく悪いことをしているようでドキドキして、写真に顔が写らないようにしていた。見るのは家族だけなのに。という子どもの頃の思い出の写真です」(昭和61年夏)



高見彰彦さん「日曜日、家族5人でひらかた菊人形へ行き、菊まつちのことで遊園地で遊ぶ。大変な人出で、帰り際に迷子になり大騒ぎ。枚方公園駅の改札でやっと見つけられ、無事に吹田の家に帰る事ができた」(昭和39年10月)

高野孝さん「当時名物の『ひらかた大菊人形』の入り口前で撮影。家内と長女、次女は欠席。後方には菊人形の展示場。毎年、ひらパーには家族連れでよく訪れていました」(平成4年11月)



ミフさん「家族三代で菊人形へ行きました。28年前の写真ですが、その頃は菊人形がなくなってしまうとは思っていませんでした。枚方市と言えば菊人形で、当時の自己紹介には必ず、『菊人形で有名な枚方市出身です』と言っていました。今は『岡田くん出身の枚方市です』ですね！」(平成元年10月)



田中茂宣さん・信子さん「枚方市に引っ越してきたころで、1歳になる長男がよちよち歩きを始めて、初めて行ったひらかたパークでの写真です。ひらかたパークにはジャイアントパンダはいなかったけど、そのころはパンダブームだったのかな。3年後に妹が生まれ、それから家族やお友達と何度も遊びに行った思い出の場所です」(昭和53年)



4歳の時にひらかたパークで妹と(平成7年頃)。



小学3年生の時、岡本さん夫妻とひらかたパークで(平成12年頃)。

上げていきたいと思えます！

市制施行70周年おめでとうございます。昭和30年代に建てられた東牧野府宮住宅(現在は団地に建て替えて)で生まれ育ち、近隣には祖父母(柳元、西尾)も住み、二軒隣の岡本さん夫妻は実孫のようにかわいがってくださいました。家族とはよくひらかたパークにも行き、楽しい思い出のある場所です。V6岡田准一さんがひらパーを盛り上げてくださったっていろいろおかげで、地方の方からも「枚方」ひらパーのある場所」と言ってもらえるのがうれしいです。私も枚方出身者の一人として、枚方を盛り

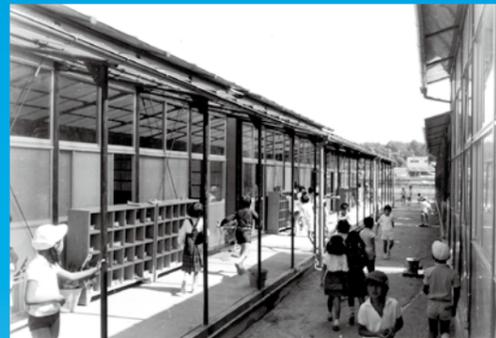
家族とよく行ったひらかたパーク

君島 遼さん

本人との共演も果たした小林幸子さんをはじめ、美空ひばりさんや氷川きよしさんのものまねでテレビ番組やイベントで大活躍。大阪市内のものまねパブ「ものまねアラジン」にレギュラー出演中。



枚方ゆかりの人



枚方市は昭和30年代後半以降、宅地開発が進んで転入者が増加し、子どもの数も急増しました。市は昭和40年から20年かけて46の小・中学校を新設しました。特に45年以降は校舎の増築や学校の新設が子どもの増加に追いつかず、校庭の大半をプレハブ教室が占める学校もあるほどでした。

思い出詰まった学校

先生や友人との思い出がいっぱい詰まった学校園。運動会での活躍や緊張した面持ちの入学式などなど。時代を感じさせる建物にも注目です。



C Kさん「枚方高校の体育祭でリレーのアンカーで頑張りました」(昭和40年10月)



くまさん「ボール蹴り競争で一番を競っています。当時は足袋の着用が多かったのですが、裸足にサポーター着用が格好良いと思ってました。ちなみにこの後、ボールが観覧席に行っちゃいー等賞はもらえませんでした」(昭和43年、菅原小学校)



将和さん「北牧野小学校で行われた区民体育祭の様子。写真の背景は増築工事が行われる前の府営住宅。当時はお風呂もなくみんな銭湯に行っていました」(昭和53年)



Hirotyさん「殿山第二小学校運動会。校舎は今もそのままですが、手前の給食棟はもうありません。当時流行の屋上から吊り下げた手作り垂れ幕が懐かしいです」(昭和52年)



昭和53年、殿山第一小学校の運動会で走る6年生の森脇さん(左)。

るうにいさん「枚方市史上一番熱かったであろう日曜日に撮った一枚です。ひらパーのフラッシュモブのイベントに友人が参加した後の写真なのですが、主役は顔を真っ赤にしながらも恥を捨て、コミカルでサンパティックな、どこか三代目で見たようなダンスを踊っていました。僕は太陽の日照りに気を取られすぎた挙句、うっかり両腕に真っ赤な日焼け跡を残してしまいました。主役はその日、ひらかたパークに大きな爪痕を残せたのではないのでしょうか。僕史上一番熱い日曜日でした」(平成29年6月)



Toshiyaさん「『ウルトラセブンと地球防衛軍』の前で。人気の高いウルトラセブンの必殺技(チョンマゲがブーメランのように飛びアイスラッガー)を、テレビで興奮しながら見ていました。毎年秋には同じ後の建物で『ひらかた大菊人形』の見流しが行われていました」(昭和43年)



武田正徳さん「ひらかたパークを出て、枚方公園駅へ向かう『おかえり道』。駅までの道はいろんな出店があって、とても賑わっていました」(昭和39年)



伏見隆さん「父母、兄、姉とひらかたパークで。家族みんなで写っている写真は全てひらかたパーク。この時、弟はまだ生まれていない。私は『枚方生まれ枚方育ち』、正確に言うと、『禁野本町生まれひらパーク育ち』だったみたい」(昭和45年5月)



芝ゆきさん「家族でひらかたパークのプールに遊びに行ったときの写真です。写っているのは私の兄で、私は満員のプールで迷子になり泣いてふてくされてました(写真には写っていません)。よく迷子になっていたことを思い出します。当時は学校のプール以外でプールといえばひらかたパークしかなかったので本当に楽しかったです」(昭和42年か43年)

いつも優しく迎えてくれる 素敵な街

もりわき けんじ
森脇 健児さん

17歳で芸能界入りしテレビ・ラジオで幅広く活躍。近年は、「走る男」として再ブレイク。全国のマラソンイベントにゲストランナーとして招かれている。



枚方ゆかりの人

昭和50年代の枚方市は子ども達であふれかえっていました。どこから子ども達の声も聞こえていて、僕の入学した第一中は1学年が15組もあった超マンモス校でした。今は子どもの数は多くないかもしれませんが、今の枚方市は学生も多く活気が、今の枚方市は学生も多く活気のある街だから活気があり、自然豊かです。それでいてほどよく都会な枚方。いつも僕を優しく迎えてくれる素敵な街です。



将和さん「北牧野小学校（廃校）の入学式の風景。写真左にあるのはプレハブ教室だと思います」（昭和51年）



Yさん「山田小学校のプレハブ校舎を背に。町内のお祭りで」（昭和54年頃）



小嶋豊司さん「53年前の秋、青空の校庭にて、しゃがんだ姿勢で人文字を作り、上空を1機のセスナ機が撮影飛行しました。私は1年生でした」（昭和39年10月）

1964 TOKYO オリンピック 記念



ミワさん「娘が6年間お世話になった小倉保育所。四季折々の行事を楽しみ、元気に通所してくれました。当時5歳だった娘も今や社会人。近くを通ると当時の様子が今も思い出されます」（平成3年5月）



守岡憲一さん「渚保育所の運動会が終わったところです。子どもたちの演技を見て少しホロリ。健やかな成長を願っています」（平成28年10月）

本山菊子さん「聖母女学院幼稚園の一日動物園でした」（昭和58年9月）

きっしさん「上の子が小学校に入学する直前に枚方市へ引っ越してきました。その子も今は高校3年生です！ 枚方で育った子どもたち、これから視野はきっと広がっていきますが、育ったまち『枚方』の思い出は忘れないでほしいです！」（平成18年4月）



M・Mさん「中学時代はソフトボール部、当時の一中はソフトボールの強豪校でした。この試合は1番ショットで出場。ホームを踏む瞬間、よくぞ撮ってくれました！」（昭和46年春）



第四中入学式後のクラス写真（昭和41年。最上段左から4人目）。



のどかな青春過ごした枚方が懐かしい

つばきのぼる
椿昇さん

現代美術家で京都造形大学教授。平成13年の横浜トリエンナーレで発表した全長50mの巨大バットのバルーン「インセクト・ワールド」が大きな話題を呼ぶ。京都国立近代美術館などで個展を行うほか、瀬戸内国際芸術祭のエリアディレクターも務める。



枚方ゆかりの人

中学1年になった途端、右も左も分からないのに担任の先生からいきなり学級委員長をしなさいと言われてた事だけは鮮明に覚えている。とにかく女子が身体も大きいし、おませでまぶしく感じた黒服デビューであったので、坂道を下ったすぐそばに四中があった。五常小学校の時はまったくの運動音痴だと思っていたのに結構リレーで足が早い事に気付いたり…ちょっと毛沢東に憧れたりしながらも、地味でのどかな中学生生活を過ごした青春の枚方が懐かしい。

「枚方は、私のたいせつなふるさとです」

もりしげ ひさや
森繁 久彌さん

※市制施行60周年メッセージより



大正2年、現在の枚方上之町生まれ。枚方尋常小学校1年生まで枚方で過ごす。映画「社長」シリーズや舞台「屋根の上のヴァイオリン弾き」など昭和を代表する国民的俳優として活躍。昭和59年に枚方市名誉市民となる。平成3年に文化勲章を受章。平成21年死去（96歳）。同年に国民栄誉賞を受賞。



意賀美神社境内の石段に座り笑顔の森繁さん(昭和33年頃)
△写真提供…眞先友宏さん▽

家族でお参り



初詣やお宮参りは家族みんなで出掛ける一大イベント。皆さんおめかししています。いつの時代も、家族の幸せや子どもたちの健やかな成長を願う場所ですね。



高野孝さん「次女7歳の七五三。百済王神社の旧境内で。左から2番目の祖母は10年前に亡くなりました。二人の孫を大変かわいがっていた祖母でした」(平成2年11月)



KAZUさん「意賀美神社で七五三」(昭和36年11月)



甲斐春佳さん「あなたよあなたよしあわせになれ 7歳」(平成26年11月、春日神社)



黒子ちゃん「小学校2年生の時に枚方に引っ越してきて以来、40年以上毎年欠かさずお正月は山田神社に初詣に行っています。この写真は小学5年生の時、母と。たぶん家族4人(父・兄)で行った時のものです」(昭和50年1月)



奈緒さん「祖父母と一緒に着物を着て初詣に行きました」(昭和55年1月、交野天神社)



KAZUさん「意賀美神社で宮参り」(昭和32年5月)



昭和44年頃、ひらかたパークの「こども自動車」で(中央上)。



平成2年、家族揃って意賀美神社でお宮参り。

愛する街、心癒される故郷

かわさき まよ
川崎 麻世さん

俳優・歌手。昭和52年デビュー以来、テレビや舞台などマルチに活躍を続ける。歌手デビュー40周年を迎えた今年、自身の作詞作曲による新曲リリース、舞台演出家デビューなど新たな展開を見せた。



枚方ゆかりの人

実家は枚方公園駅前で「喫茶コハク」を経営している。今年60周年になる。そこから踏切を渡りしばらく歩くと「ひらかたパーク」が見えてくる。今は亡き祖父が、園内で「子ども自動車」というアトラクションを当時経営していた年中遊びに行っていた。その倉庫兼工場でオリジナル玩具を作ったり思い出は尽きない。そして娘が誕生した時には「意賀美神社」で家族揃ってのお宮参りをした。私にとって枚方はまさに愛する街、心癒される故郷なのだ。



山田池公園

枚方のほぼ真ん中にある四季の自然を楽しめる74ヘクタールの公園。芝生の丘や多彩な遊具を楽しめる広場をはじめ、季節の花の見どころや無料のバーベキュー広場は多くの人でにぎわいます。

公園

で遊ぶ

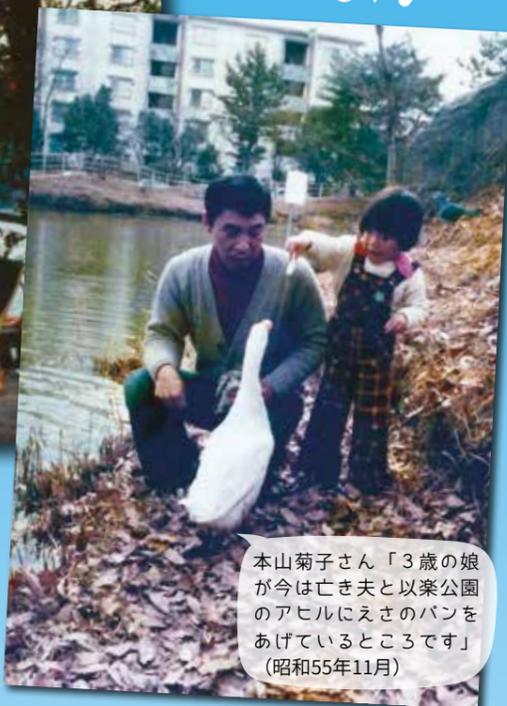


近所の公園は一番身近な遊び場。兄弟で遊んだりペットと一緒に散歩したり。子どもたちの表情も生き生きしています。

M・Mさん「山田池公園の浮見堂と次女です。子どもの小さい頃は山田池公園へ行って、家族でキャッチボール等、よくボール遊びをしました。今でも休日の朝ジョギングをしていますが、当時の木々が大きく成長し、陰となって気持ちよく走っています」(平成6年9月)



大西信子さん「テレビで山田池公園の花菖蒲を紹介していました。私が住んでいる所からは少し離れてますので初めて知り出掛けました。公園内の車止めでしょうか、道の真ん中にありました。娘5歳です」(昭和58年6月)



本山菊子さん「3歳の娘が今は亡き夫と以楽公園のアヒルにえさのパンをあげているところです」(昭和55年11月)



明円勝さん「国鉄片町線津田駅。当時は単線だったのでお昼頃に上り貨物992列車が先に到着した後、下り貨物993列車が長尾方向から到着して交換しました」(昭和44年)

明円勝さん「国鉄片町線津田駅へお母さんと一緒に汽車を見に来た男の子。この子は現在50歳くらいでしょうか」(昭和46年)



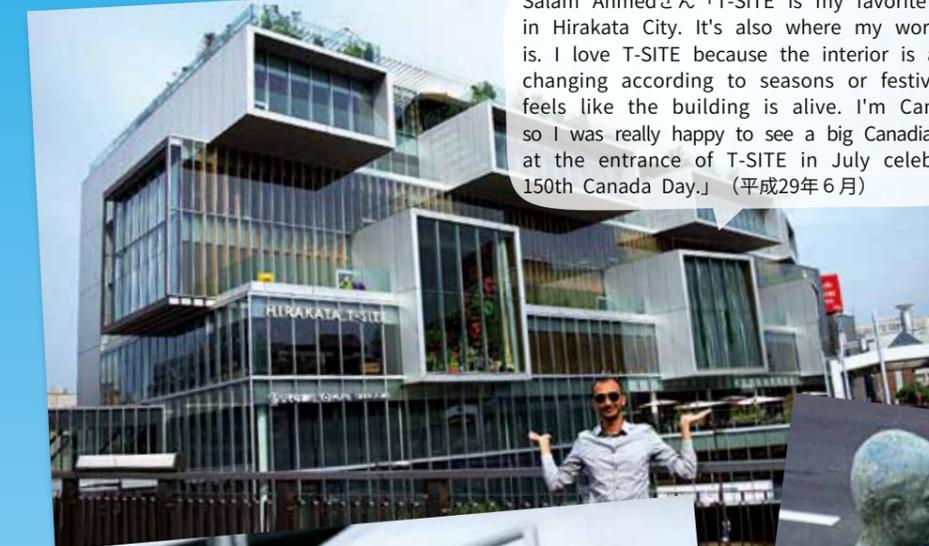
▲高架化工事中の枚方市駅 (平成2年3月)



枚方市駅前

1日9万人以上が利用する京阪電車の主要駅。平成5年に高架化工事が完了。特急が終日停車します。昨年春には枚方市駅前が発祥の地である「蔦屋書店」を中心とした「枚方T-SITE」がオープンしました。

Salam Ahmedさん「T-SITE is my favorite place in Hirakata City. It's also where my workplace is. I love T-SITE because the interior is always changing according to seasons or festivals, it feels like the building is alive. I'm Canadian so I was really happy to see a big Canadian flag at the entrance of T-SITE in July celebrating 150th Canada Day.」(平成29年6月)



Yさん「枚方市駅ホームにて、亡き祖母とその弟(妹家族) (昭和32年頃)



湯浅博さん「当時の宮之阪1丁目の様子(京阪宮之阪駅前踏切)。車も三輪が走ってました」(昭和45年頃)



Gabrielさん「I am happy Hirakata is the city I work in. There are many restaurants where I can eat delicious foods. The people are always friendly and T-SITE is beautiful to look at.」(平成29年6月)

駅前

はまちの顔



まちの成長とともに発展してきた駅前は地域のシンボル。蒸気機関車や三輪自動車が懐かしい人も多いのでは。



〇さん「お正月に家から歩いて30分程、百済王神社によく初詣に行きました。帰りにはいつも百済寺跡を散策しました(平成2年1月)」



高野孝さん「百済王神社で長女と次女の七五三参りをした後、隣の百済寺跡公園(家が隣でしたのでよく遊びました)で撮影。紅葉がきれい」(昭和61年11月)

伴晴香さん「トンボメガネの母が私を抱っこしています。父と一緒に香里丘の公園(たぶん現在の保坂医院の近くでは)でお散歩したときのもの。当時母は24歳。このとき母が着ている洋服は、かなり最近まで母がとっていたので覚えています。私は長女だったので、写真の枚数がとても多くて、2歳下の妹がよく怒っていました。モノクロ写真も多いのですが、これはカラー。出始めの頃でしょうか」(昭和44年夏頃)



粟田佳宏さん「市役所入職1年目。岡東中央公園で同期と撮った写真。今は舞台やスロープができてなくなってしまう水路前のベンチで。後ろに見える建物は別館」(平成2年7月)

きっしさん「枚方に転居してほぼ2年目、年賀状の写真にと近所の公園で撮影しました。枚方で生活にも慣れたころでした」(平成19年12月、津田公園)



淀川河川公園で家族を撮影(平成12年)。



田中茂宣さん・信子さん「6歳の長男と2歳の長女。淀川河川敷の芝生でよく遊ばせました。二人ともここで自転車の補助なしの練習をした記憶があります。今は孫が5人枚方市にあり、河川敷に連れて行くこともありますが、当時とあまり変わっていない風景を懐かしく思います」(昭和58年3月)



わんさん「ドッグランもある東部公園。スタジアムの前に立っている4歳の長男の姿がよく分からないほど広いです。向こうには京田辺市街地が見渡せます」(平成29年5月)



M・Mさん「花しょうぶ園。菖蒲の時期ではないので菖蒲は咲いていませんが、四季折々の花が楽しめる市民の森です。子どもが小さい頃は、せせらぎの森で水遊びも楽しみました。当時はあまり知られてなかったのか訪れる人も少なく隠れたスポットでした」(平成3年9月)



萌々香さん「おばあちゃんとお花見がてら犬の散歩に行きました」(平成13年4月、楠葉東公園)

自然がふんだんにあるこのまちが大好き

しんぼう じろう
辛坊 治郎さん

読売テレビの解説委員長などを務め、現在はニュースキャスターとして多くのテレビ番組に出演している。



枚方ゆかりの人

私が枚方市に住み始めたのは、読売テレビに入社した1980年4月の事です。当時、このまちに住んでいた伯父にアパートを見つけてもらった縁でした。それから多少の出入りがありますが、この地で家庭を作り、子育てしてきました。淀川河川敷の公園には子どもたちを連れて自転車でよく遊びに行きました。大きなショッピングセンター等と共に豊かな自然がふんだんにあるこのまちが大好きです。

団地のある風景

住宅都市として人口が急増した枚方市を象徴する団地。子どもたちはコマ回しやローラースケートなど、時代ごとの流行の遊びで大盛り上がりです。

香里団地

昭和31年、旧陸軍の火薬製造所跡で造成がスタート。139万平方メートル、5214戸の規模は当時「東洋一のマンモス団地」と呼ばれ、「つづり方兄妹」「喜劇・団地親分」など映画の舞台にもなりました。



▶ 昭和37年にはケネディ大統領の弟で当時の司法長官ロバート・ケネディ夫妻も訪れました。



▼入居が始まった香里団地(昭和33年)



伏見隆さん「香里ヶ丘6丁目の祖母の家の前で姉と。バスが大好きで、菊ヶ丘から丘を越えて現われるシーンを今でも覚えている。この時もそうだったかな。姉と視線が違う」(昭和45年11月)

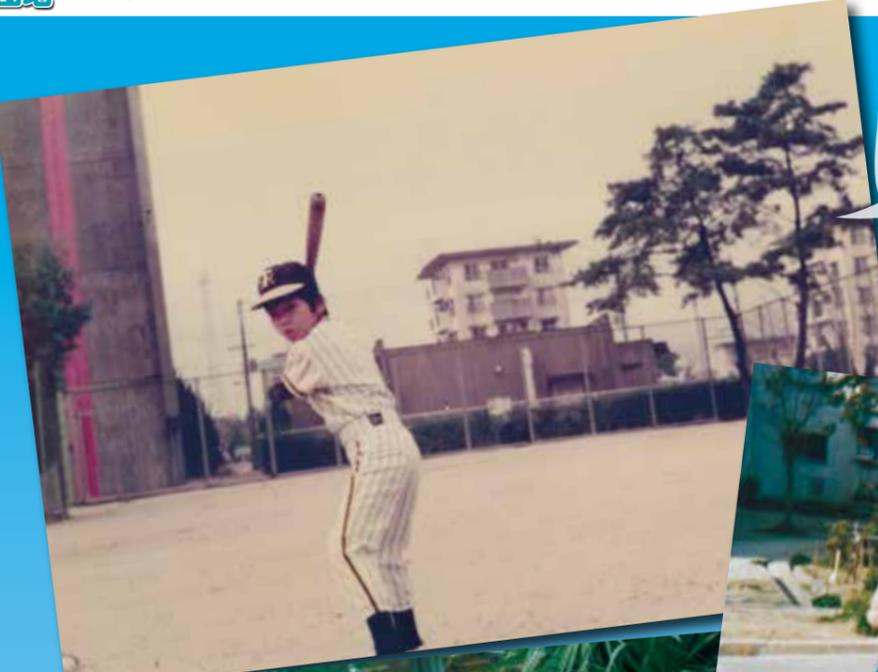


伏見隆さん「祖父に連れられ、兄・姉と。香里団地の大丸ピーコック付近と思われる。この頃の記憶はほとんどないが、祖父母は和服姿の記憶が残っている」(昭和45年)

大西信子さん「娘2歳3カ月。クリスマスプレゼントで当時流行の『キャンディ・キャンディ』の自転車に乗って得意げです」(昭和55年11月、桜丘団地)

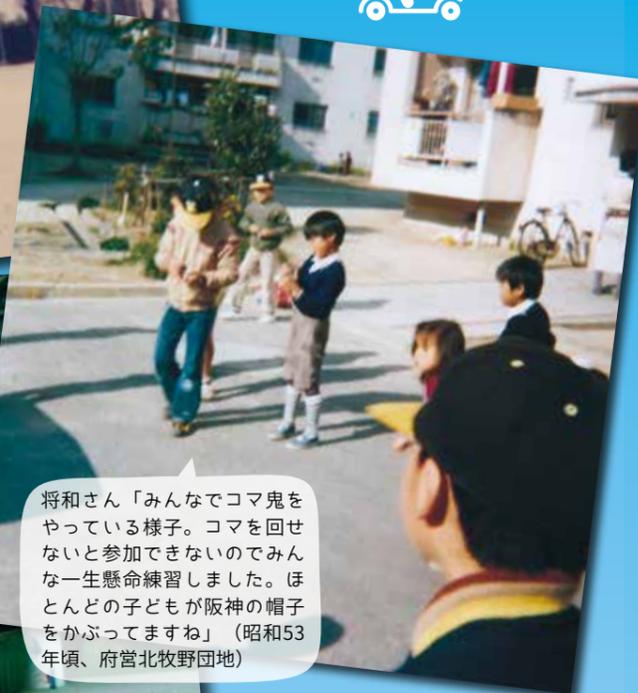


ハニーさん「小学4年生の時、田淵が巨人戦で放ったサヨナラホームランをテレビで見て大の阪神ファンになりました。ユニフォームを買ってもらって家の近くのグラウンドでポーズ。でも恥ずかしくてこの後は一度も着なかったような…」(昭和50年頃、中宮団地)



伴晴香さん「女性に抱っこされているのが私。母の出産を聞いて、母が勤めていた会社の同僚がお祝いに訪ねてきてくれたそう。母のお友達はみんなおしゃれで美人。着ている服は当時の流行のスタイルです」(昭和44年夏頃、香里団地大丸ピーコック前)

将和さん「みんなでコマ鬼をやっている様子。コマを回せないと参加できないのでみんな一生懸命練習しました。ほとんどの子どもが阪神の帽子をかぶってますね」(昭和53年頃、府宮北牧野団地)



ハニーさん「おそらく小学4年生の時。当時はローラースケートが大ブームで、放課後はいたるところで『ガーガー』とスケートの音が鳴り響いていました。きつとうるさかったでしょうね」(昭和50年頃、中宮団地)

Toshiyaさん「手前の平屋は中宮北町の近畿財務局枚方宿舎で、後ろに見えるのは中宮第三団地。新しい団地はとてもモダンで、時々見上げていました。近所で犬を飼っていたお兄さんと妹の三人で写真撮影。犬の苦手な私と妹のために、いつもかわいがっていた犬の耳をしっかりとつかんでくれました」(昭和45年)





▲延べ17万人が訪れた第1回枚方まつり(昭和51年)



枚方まつり

20年近く親しまれた「淀川まつり」を受け継ぎ、市民主体の祭りとして昭和51年に始まりました。現在は毎年8月、2日間にわたり枚方市役所周辺で行われ、約10万人が訪れる枚方最大の祭りとして親しまれています。



ふとん太鼓

五穀豊穡を願い約300年前に始まったといわれる伝統行事。現在も毎年10月「エラサッカー」の掛け声とともに市駅周辺を4町のみこしが練り歩きます。

楽しいお祭り



伝統行事から市民が創り出した新たなお祭りまで、イベントが盛りだくさんの枚方市。地元を盛り上げたいという市民パワーにあふれています。

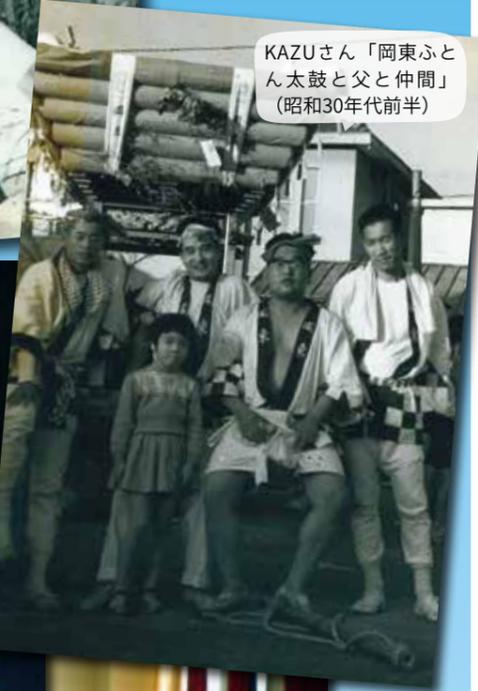


湯浅博さん「宮之阪1丁目地蔵盆」(昭和45年~50年頃)

芝ゆきさん「菊丘南町にある松下電器工学院(当時)のグラウンドで開催されたボイススカウトのイベントで撮影した写真です。北河内地区からたくさんの方々が集まり、友情ゲームや野外活動のスキルを競うプログラムを楽しみました。後ろに写っているのが松下電器体育館で、当時としては斬新なデザインで話題を呼びました(昭和47年2月)」



佐藤進さん「枚方~伊加賀三和のタイコダイ(フンダイコ)」(昭和30年秋)



KAZUさん「岡東ふとん太鼓と父と仲間」(昭和30年代前半)



雲川令子さん「第2回宮之阪七夕まつり」の写真です。今年29回を数え、大勢の人たちでにぎわう宮之阪七夕まつりも、平成元年に住民有志が、通りに十数本の七夕笹を飾り付けて始まりました。翌年その中心の京都信用金庫前広場に頑丈な鉄の枠組みが作成され、皆で協力して6メートルの大竹4本を立て、七夕飾りを取り付けました」(平成2年7月)



萌々香さん「母とおばの家族とみんなで近所(須山町)のお祭りに行きました。浴衣や甚平を着ておすまじです。この時にすぐった金魚はまだ元気に泳いでいます」(平成15年8月)



保坂さん「枚方市役所近くの公園で開催されていたイベントで友達と撮った写真です。屋台が出ていたり、チマチヨゴリが着れる体験ブースがあったりと楽しかったです」(平成28年5月)



BOW & JOSHさん「牧野公民館での第1回ひらかた人形劇フェスティバルで師匠との1コマ。人形劇フェスティバルも今年で29回目を迎えると聞いて、月日の流れを感じました」(平成2年)

石田智則さん「枚方宿ジャストリート2007を見学した後、仲良し3人組で大坂城公園までアクアMiniに乗り、好天に恵まれ思わずシャッターをパチリ。ひらかたパークの観覧車が建設中のマンシヨンの影からのぞいており、良い思い出の写真となりました」(平成19年11月)

仲良く お出かけ



お買い物や食事にプールにキャンプ場。家族や友達同士で仲良くお出掛けのワンシーンです。大人が買い物している間、デパートの屋上遊園地は子どもたちのオアシスでした。



樟葉駅前に広がる大阪府内有数のショッピングモール。衣料やインテリア、雑貨店、レストランなど約240店舗が揃うほか、最新機能を備えたシネマコンプレックスで映画も楽しめます。

くずはモール

▼昭和47年、前年開業した新しい樟葉駅前にオープンしたくずはモール街。当時珍しかった広域型ショッピングセンターの先駆けとして大きな注目を集めました。



明円勝さん「旧国鉄大阪鉄道管理局から枚方市へ無償貸与された蒸気機関車D51が建設中のくずはモールに搬入された直後の様子です。この機関車は国鉄吹田第一機関区で廃車となり片町線をC11型の蒸気機関車に引かれて津田までやって来て当時建設中の京阪くずはモールの中央に設置された直後に撮影しました。今では建設中の工事現場に子どもが入る事はあり得ませんが当時は自己責任でしたね」(昭和46年10月)



奈緒さん「お母さんの買ひ物が終わるのを汽車の広場でソフトクリームを食べながらお父さんと妹と待っていました」(昭和51年10月、くずはモール街)

すどんさん「我が家には何かとくずはモールのこの場所で写真を撮るという習慣があり、この写真もそのコレクションの一つです。今は大きくくずはモール街ももっと写真を撮っておけばよかったなあ」と今更後悔しています(1990年代)



湯浅博さん「三越枚方店の屋上から高槻方面を見ると、新幹線が見えた」(昭和45年~48年頃)



布施英之さん「なみはや国体バレーボール会場の総合体育館へ行ったとき、当時は道路を挟んだ正面の畑にコスモスを植えて選手を歓迎していました。大きなカボチャも飾ってあり、息子たちは大はしゃぎでした」(平成9年10月)



FOXIPENTAさん「現在の香里ヶ丘のビコックやkorio付近です。昔は七夕の時期に七夕飾りをして賑わっていたようです。ビーチパラソルで暑さをしのぎ、くつろいでいる様子が伝わります」(昭和45年7月)



あっこさん「両親と息子たちと近鉄百貨店へ。当時、屋上には遊具やゲーム等があり、よく遊びに行っていました。夏休みのホッとする時間です。次男はあるキャラクターを真似てのポーズです」(平成7年)



松井茂夫さん「ビオルネ南西角の外エスカレーターのある場所、60年前ここには履物屋さんがあって、大きな長靴と地下足袋の広告が見ることができました。ある日、新聞記者が地方版に載せようということで、近所の子ども(私)が連れて来られ、にわかモデルにさせられました」(昭和32年頃、岡本町商店街)

樟葉駅前の照明塔をアルバムのジャケットに

まつうら まさや 松浦 雅也さん

ミュージシャン、ゲームデザイナー、プロデューサー。打ち込み音楽の先駆ユニット「PSY・S(サイズ)」で昭和60年にデビューし、12枚のアルバムをリリース。数々のゲームを制作し、プレイステーション用ゲームソフト「パラパラッパー」は、その後の音楽ゲームブームの先駆となり70カ国以上でリリースされた。



枚方ゆかりの人

牧野高校を卒業し、大学へ通っていた1981年頃、シンセサイザーの音楽作りに熱中し夜遅く帰宅していました。樟葉駅前にあった塔の光をぼんやり眺めながら、未完の曲のその先をよく考えたものです。少しあとに、塔の写真がジャケットにして、最初の自主盤は完成しました。36年経ち、風景は随分変わりましたが、塔はそのままだそうですね。これからも姿を変えていく街や創作を称えて、今回「未完の塔」と勝手に命名したいと思います(笑)。



最初の自主製作版。

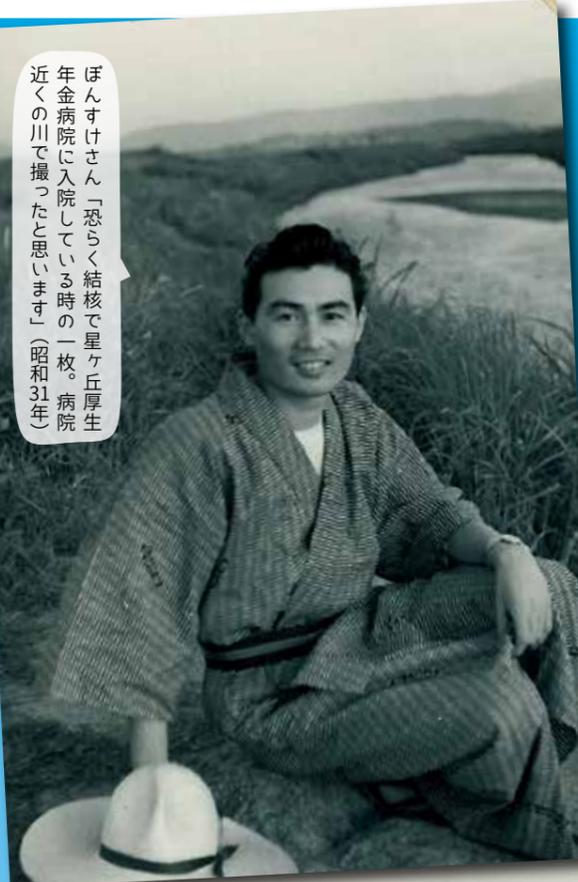


樟葉駅前ロータリーの照明塔。



〇さん「大正生まれの両親の金婚のお祝いを杉・五兵衛でしました。子・孫全員が揃い、秋の一日を楽しんで過ごしました」(平成2年11月)

M・Mさん「枚方での花見は毎年ゴルフアベニューです。レストランで食事をしたり、おにぎりを持ってゴルフを観ながら花見を楽しみました。夜はライトアップされて素敵な夜桜です」(平成8年4月)



ぼんすけさん「恐らく結核で星ヶ丘厚生年金病院に入院している時の一枚。病院近くの川で撮ったと思います」(昭和31年)



ブルムさん「天野川の土手で土筆ゲット」(昭和45年4月)



守岡穂穂さん「牧野にあったヤングブラザは妹と一緒に父に連れて行ってもういきました。波のプールが面白くて、いつまでも遊んでいました。翌日に弟が生まれたのでよく覚えてます」(昭和60年8月)



芝ゆきさん「娘の5歳のお誕生日会をリニューアールしたばかりの野外活動センターでしました。幼稚園のお友達と一緒に楽しい一日を過ごしました。写真はジャブジャブ池(今は?)で遊んでいるところです。この後、こけてしまひびしよびしよに。念のため着替えを持参して良かったです。ハプニングもあり、思い出に残る一日でした」(平成5年5月)



ミフさん「れんげまつりとはいえ、れんげだけではなく、チューリップや菜の花などさまざまな花が丹念に植えられ、咲き誇っており、親子で楽しみました。今や『にほんの里100選』に選ばれている穂谷ですが、今後も穂谷特有の動植物が健やかに成長し、未来永劫美しい景観が保存されることを望みます」(平成7年4月)



Y・Gさん「家族で穂谷川の河川敷を散歩したときの写真です。周りに何もなかったので、どなたりなのかよく分かりませんが、遊びに行った記憶があります。おんぶしてくれている母のスカートの巻き方が、映画『君の名は』の『真知子巻き』なのかなと思っています」(昭和37年頃)



将和さん「ヤングブラザには『東洋一のプール』をうたい文句に多くの人が訪れました。芸能人のショーがあるときはプール周辺の堤防やマンションにも多くの人が集まっています」(昭和53年頃)



客席いっぱいの観客と大いに盛り上がりました。



生まれ育った枚方の、枚方市市民会館大ホールにて、結成10周年の2010年10月10日に行った時の一枚。デビューしたくて離れたのに、戻ってきた時、温かく迎えてくれた街。故郷は、一つしかないから、節目に帰って来られてよかった。僕らも枚

温かく迎えてくれた故郷でのコンサート

アンダーグラフさん

平成11年結成のロックバンド。デビュー曲「ツバサ」が40万枚の大ヒットを記録。アニメ「弱虫ペダル」のエンディング「風を呼べ」のヒットでも知られる。枚方市PR大使。メンバーはボーカルの真戸直人さん(中央)、ベースの中原一真さん(右)、ドラムスの谷口奈穂子さん(左)。



枚方ゆかりの人

みんな 枚方家族



家の中や前でのひとコマ。
建物や家具、家電製品に時代が表れていますね。
食事を楽しんだりお祝いしたり...
何気ない普段の幸せな生活が「枚方家族」の姿です。

伴晴香さん「香里団地の星形住宅に住んでいました。母によると、『大阪市内に住んでいたが、出産を機に郊外に住もうと、当時大人気だった香里団地の星型住宅に応募した。父の名前では当たらず、姑の名前を借りて再度チャレンジしたところ、無事当選できた』とのこと。本当はダメなことだったのかもですが、もう時効ですよ。それくらい当時憧れの住居だったんですね。写真は、リビングで、当時流行したフランスベッドのテクニカラーのソファベッドに、お気に入りのぬいぐるみをいっぱい置いて撮影してもらいました」(昭和45年冬)



くまさん「夏の暑い日に『金太郎』をつけてもらって、自宅の窓から帰ってきた家族を見つけて笑顔で迎えています」(昭和33年、藤阪中町)



大西信子さん「娘3歳の七五三のお祝い。着替えが終わりにニコニコ顔です。我が家唯一の撮影スポット、テレビの前で」(昭和56年11月、桜丘団地)



Toshiyaさん「上下水道局(中宮浄水場)に隣接していた中宮北町の近畿財務局の方宿舎は、当時、平屋で一棟二軒の建物でした。その後、建て替えが進み、5階建ての合同宿舎(団地)が建ちましたが、現在はその団地も取り壊されました」(昭和42年)



ゆきさん「カメラが趣味の親戚に撮影してもらおうということで、当時住んでいた香里団地の駐車場に止まっていた車の前で、ハンチング帽をかぶってポーズを決めています。なぜ、あられを持っているかは今となっては不明です」(昭和52年頃)



Hirotyさん「自宅前で新しく買ってもらった自転車に3つ下の弟を乗せて悪ふざけ。弟は無理やり乗せられたようで無表情でしたが、買ってもらった自転車に乗れて、とてもうれしかった思い出が...」(昭和49年、高塚町)



永田栄子さん「現在の国道307号沿いの庭ですが、まだ307号はありません。後ろに見えるのが津田中学校の唯一の鉄筋校舎です。また、ボデイカーがかかっています。三輪自動車も見えます」(昭和40年12月、津田元町)



高見彰彦さん「津田駅近くの国鉄官舎で。物干し竿を、Y字型の棒で上げ下げする。これだけ高いと大変だ」(昭和28年10月)



ぼんすけさん「母(故人)と私で自宅の庭にて。裏の家がまた葺き屋根でした」(昭和31年、上島町)



奈緒さん「三姉妹の末っ子のお食いの初めの時の写真です。一生食べ物に困りませんようにと願いを込めて」(昭和56年9月、楠葉丘)



ぼんすけさん「会社の健康診断で結核に罹患していることが判明し、星ヶ丘厚生年金病院で入院、療養しました。このため、決まっていた結婚が1年間先延ばしになりました」(昭和31年)



あっこさん「父との休日のひととき。自宅の裏庭にあったプランコ。お天気が良かったので、二人でプランコに乗り、父がプランコをこいでくれたのでした。撮影者は母。両親と一緒に最高の笑顔です」(昭和45年3月 渚元町)



ちよんさん「家族写真(母・兄・姉・私)」(昭和41年、上島町)



M・Mさん「大雪の日、大喜びの子ども達と雪だるまを作りました。自宅近くの坂道も雪が積もり、スキーをしたいと思います」(平成6年2月、黄金野)



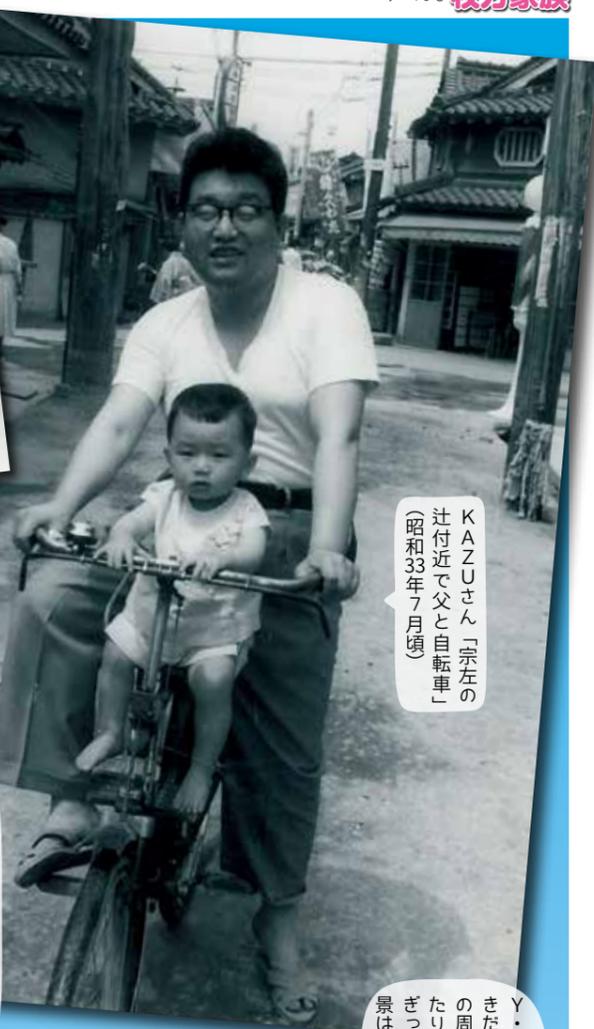
雲川令子さん「前の家から持ってきた石臼でお餅つきを楽しむ父と娘たち。宮之阪周辺では餅つきの音も珍しくなりました」(昭和58年12月)



S・Mさん「50年前の夏休み、うみのほしの教会をバックに屋根の上の弟と妹を撮影しました。この頃、夕方には家々の屋根の煙突から風呂を薪で焚く煙が昇っていました」(昭和41年頃夏)



M・Gさん「近所のお姉さんと一緒に写真を撮ったものです。『福助堂商店』という駄菓子屋で、リンゴの木箱の上に駄菓子を並べて売っていました。店には赤電話があったり、パンや牛乳・ジュース、缶詰もあり、おきなどは計り売りました。昔のコンビニといったところです」(昭和39年頃、新之栄町)



KAZUさん「宗左の辻付近で父と自転車」(昭和33年7月頃)



プラムさん「市民病院前の坂をバックに屋上で、ママのお友達とバチリ」(昭和44年5月、西禁野付近)



Yさん「飼っていた鳥とともに」(昭和52年頃、甲斐田町)



Y・Gさん「大阪市内から引越して間もない頃、大好きだった伯母に遊んでもらっている写真です。当時、家の周りにはほとんど何もなく、現在の穂谷川清掃工場あたりまでが見通せるほどでした。今では周りには家がぎっしりと建ち並び、マンションや学校も建設され、風景は一変しています」(昭和37年頃、片鉾)



実家のペランダで弟と。この家はもうないが、今もある光善寺駅前テパートの壁面が見える。市場にはおもちや屋さんや豆腐屋さんがあってよくおつかいを頼まれた。



ひらかたパークでいとこたちと。春休みや夏休みになると恒例で遊びに行った。ヒーローショーに夢中だった。

毎日のように通った蹉跎図書館

ミロコマチコさん

絵本作家。23歳から独学で絵を描き始め、デビュー作「オオカミがとぶひ」で日本絵本作家大賞を受賞。平成27年には「オレときいろ」がブラチスラバ世界絵本原画展で最高賞に次ぐ「金のりんご賞」を受賞した。



枚方ゆかりの人

高校生の頃、家から徒歩1分の蹉跎図書館に毎日のように通った。子どもに混じって夢中で絵本を読みあさったのを覚えている。あれから20年、まさか絵本を作る側にいるとは。私の心の本棚は蹉跎図書館のラインナップでできている。

枚方市70年の歩み

- 市制施行 府内12番目、人口4万人
- 旧陸軍禁野火薬庫跡地に市民病院開院 病床数26、医師・職員合わせて21人
- 東側に隣接する津田町を編入合併 現在の市域となる
- 香里団地の入居始まる 総面積139万㎡、5214戸で「東洋一のマンモス団地」と注目される
- 京都市伏見～中振間約20kmを結ぶ 片側2車線の枚方バイパスが 8年にわたる工事を経て全線開通
- 人口20万人を超える
- 枚方市民憲章制定
- 市民会館大ホール完成
- 本格的ショッピングモールの先駆け ぐずはモール街オープン
- 市立図書館が発足
- 枚方市駅前再開発事業完成
- オイルショックの影響で 前年度中止となった「淀川まつり」が 第1回「枚方まつり」として復活
- 大阪府内初となる 非核平和都市宣言を行う

昭和22年 1947年

昭和25年 1950年

昭和30年 1955年

昭和33年 1958年

昭和41年 1966年

昭和45年 1970年

昭和46年 1971年

昭和47年 1972年

昭和48年 1973年

昭和50年 1975年

昭和51年 1976年

昭和57年 1982年

平成元年 1989年

平成5年 1993年

平成7年 1995年

平成10年 1998年

平成17年 2005年

平成20年 2008年

平成22年 2010年

平成26年 2014年

平成27年 2015年

平成28年 2016年

平成29年 2017年

- 禁野火薬庫の爆発50年を機に 爆発が起こった3月1日を 「枚方市平和の日」に制定
- 着工から15年に及んだ 枚方市駅鉄道高架化工事が完了
- 人口40万人を超える
- 市内全域でオゾンと活性炭による 高度浄水処理水の供給を開始 カビ臭はほぼゼロに
- 輝きプラザきらら、 中央図書館オープン
- 新火葬場やすらぎの杜、 東部清掃工場オープン
- 第二京阪道路が全線開通
- 全国43市目となる中核市へ移行
- 硬式野球もできる ひらかた東部スタジアムオープン
- 枚方T-SITE が枚方市駅前にオープン
- 市制施行70周年



雲川令子さん「戦後の物資がなくて赤ちゃんのミルクにも不足した時代、3カ月の私と2歳になったばかりの姉、教員だった父、そして母とお祖母ちゃん、5人家族でささやかなお節を用意して食卓を囲む風景です。後ろの板戸には14年の禁野火薬庫の爆発で飛んできたという弾丸の跡がありました」（昭和23年正月、天之川町）



CKさん「母と一緒に太巻きを作っている写真です」（昭和34年9月、楠葉丘）

Hiroseさん「叔母の家で妹と従兄弟、リモコンもない懐かしいテレビに映った元祖天才ハカボンは当時を思い出されます。親戚もよく集まってわいわい夕食を共にしました」（昭和50年、高塚町）



萌々香さん「親子三代、女ばかりでひな祭りをお祝いしました。ひな人形は母が小さいときに買ったものです」（平成14年3月、楠葉丘）



70歳の枚方市、こんな感じです

マイカタちゃいます、

平成29年8月1日、市制施行70周年を記念して市民会館大ホールで上映された映画「くらわんか!」の舞台あいさつ。プロデューサーの難波利幸さん、主演の青木玄徳さんと赤澤燈さん、監督の石川二郎さん、伏見市長らが両手で枚方市の形を表した三角形をつくりお客さんと一緒にポーズ。枚方市70歳の誕生日をお祝いしました。

左から難波さん、枚方市ひこぼしくん、赤澤さん、伏見市長、青木さん、石川さん、交野市おりひめちゃん。